

第65回全国装蹄競技大会・装蹄判断模範解答

肢別	前肢				後肢							
肢勢	前望	外向				後望	狭踏兼外向					
	側望	後踏 集合肢勢				側望	前踏					
蹄形	左	外向 不同蹄 角度 左>右				左	外向					
	右	外向				右	外向					
歩様	外弧		先着部位	左	外蹄尖～側		内弧		先着部位	左	外蹄尖～側	
			右	外蹄側		右			外蹄尖～側			
疾病損徴	左	肘腫痕、冠膝痕、外蹄踵拳踵・狭窄、球節(球腱)軟腫、蹄壁欠損				左	飛節軟腫、球節(球腱)軟腫、蹄壁欠損 飛節外傷痕、蹄尖壁摩滅、蹄叉腐爛					
	右	冠膝痕、球節(球腱)軟腫、繫輝、蹄壁欠損				右	飛節軟腫、球節(球腱)軟腫、交突痕、蹄尖壁摩滅、蹄壁欠損、蹄叉腐爛、					
多削部位	多削部位		蹄角度の適否		多削部位		蹄角度の適否					
	左	外	内	左	外	内	右	内	外			
	右	内	外	右	内	外						
装蹄の方針	<ul style="list-style-type: none"> ●左右蹄いずれも球節(球腱)軟腫に留意し、外側負面を多削して負重バランスの調整に心掛ける。 ●左蹄では肘腫痕に配慮して、鉄頭部下面内縁に幅広い斜面(除土面)を設け、鉄尾の過長に注意する。 ●右蹄では不同蹄と冠膝痕に配慮して、蹄尖部を可能な限り多削し、蹄角度の増大に努め、さらに上弯を大きめに設置するなど、反回を促進を図る。 ●左蹄では、外蹄踵の拳踵・狭窄に配慮して、外側の蹄支角を削開し、狭窄部分の蹄鉄接蹄面(上面)をやや外方に傾斜させると共に、必要に応じてその部に空隙を設ける。 ●蹄壁欠損部は鑢等を用いてその部を滑らかにし、悪化予防に努める。 				<ul style="list-style-type: none"> ●左右蹄いずれも、飛節軟腫、球節(球腱)軟腫に留意し、蹄尖負面を多削して蹄角度の増大に努めると共に、外側負面を多削して内外バランスの調整に心掛ける。 ●蹄尖壁摩滅に対処するため、左右いずれも大きめの鉄頭鉄唇を設け摩滅部を保護する。 ●右蹄の交突痕に留意し、左蹄鉄内側の適合を狭くして、内側鉄枝外面を下狭にする。 ●左右蹄とも、蹄叉腐爛部を可能な限り削切し、悪化予防に努める。 ●蹄壁欠損部は鑢等を用いてその部を滑らかにし、悪化予防に努める。 							
	<p>① 多削部位は原則として下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 一側多削</div> <div style="text-align: center;"> 蹄尖多削</div> <div style="text-align: center;"> 両蹄踵多削</div> <div style="text-align: center;"> 一側蹄踵多削</div> <div style="text-align: center;"> 蹄壁鑢削</div> <div style="text-align: center;"> 現状維持</div> </div> <p>② 蹄角度の適否は下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 現在よりもたてる</div> <div style="text-align: center;"> 現在よりもねせる</div> <div style="text-align: center;"> 現状維持</div> </div> <p>③ 「装蹄の方針」欄には、この馬の判断結果を総合して、重点事項を記載する。箇条書きを基本とする。</p>											